

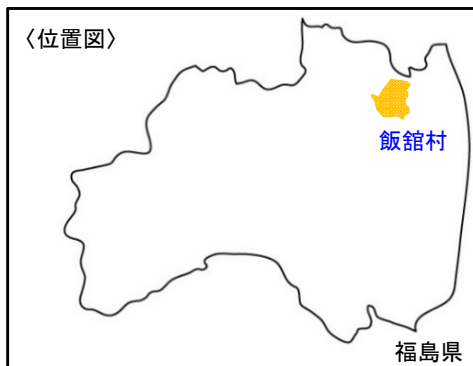
東日本大震災の被災からの営農再開の取組事例 〔福島県飯舘村〕

いいいてむら

1. 地域農業の状況

○ 飯舘村は、福島県「浜通り地域」に属し、県東北部、阿武隈山系北部の高原丘陵に位置する標高220～600mの純農山村である。

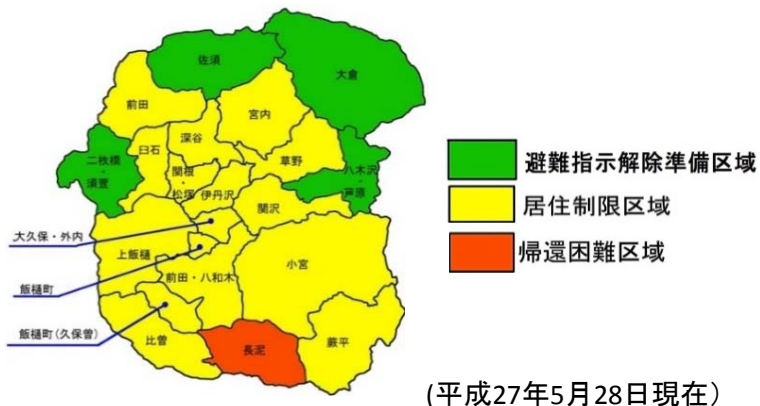
〈位置図〉



○ 主要農産物は、水稻、畜産、葉たばこで、特に柱である畜産は飯舘村振興公社を中心に「飯舘牛」のブランド化を推進してきた。

また、高冷地の条件を生かして、雨よけパイプハウスによるホウレンソウ、きゅうり、トマト、露地のインゲン、ブロッコリー、レタスなどの野菜や、トルコギキョウ、リンドウなどの花卉の振興にも力を入れ、冷害に左右されない複合経営を推進してきた。

○ しかし、平成23年3月11日に発生した東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故により、現在も全村民が福島県内外へ分散避難を余儀なくされており、村内でのすべての営農活動ができない状況にある。



2. 荒廃農地再生利用の取組

取組主体 飯舘村耕作放棄地対策協議会

地区名 福島市土船地区

再生面積 0.37ha(実証ほ場)

取組年次 平成24年～25年

作付作物 トルコギキョウ・ストック

販路 試験的に市場へ販売

○ 被災前においては、飯舘村の農業者の多くが花卉(トルコギキョウ等)、水稻、畜産、野菜などを組合わせた複合経営を行っていたが、東日本大震災に伴う原子力発電所事故により避難を余儀なくされてもなお、避難先での営農再開に強い意欲を持っていた。

○ そうした農業者の熱意に応えるべく、飯舘村耕作放棄地対策協議会が主体となり、福島県、避難先自治体、飯舘村等の協力のもと、飯舘村の農業復興と飯舘牛やトルコギキョウ等の「まいでいブランド」再生のため、営農再開に向けた取組を行った。

○ 事業の実施にあたっては、飯舘村耕作放棄地対策協議会が取組主体となり、被災農業者自らが貸借権を設定した荒廃農地の再生及び栽培用パイプハウス等の整備を行い、被災農業者へ管理を委託した。

○ 被災農業者が避難先の気候に合った栽培体系を確立するまでには試行錯誤を要するが、実証ほの設置により、飯舘村とは気象条件や土壌条件の異なる環境での、営農再開に必要な栽培技術の習得が可能となった。

○ 営農再開を果たした農業者の笑顔の中には、飯舘村の復興への熱い思いが感じられる。

荒廃農地(再生前)



再生作業後



飯舘村復興に向け営農を再開



活用した支援策

H24～25 被災者営農継続支援耕作放棄地活用事業(国)